

背景・課題

- 我が国が国際競争を勝ち抜くには、世界をリードする創造的な人材の養成が不可欠であり、大学院において国際的に卓越した教育研究拠点(=COE(センター・オブ・エクセレンスの略))の形成を図ることが重要。
 - 中央教育審議会、総合科学技術会議等の提言・報告において、国際的に卓越した教育拠点形成の必要性が明記。
※実績: 平成19~21年度の3カ年で、9分野の公募を実施し、41大学140拠点を採択。
- 施策の成果: 大学のマネジメントの強化、大学改革の活性化、大学院としての教育研究活動の充実強化(学生と他大学の教員との交流促進、外国人教員・留学生の増加等)、学生の能力の向上(論文発表、学会発表の増加等)、学生の経済的支援の充実(RA等による雇用促進等)。

事業内容

- 大学院(博士課程)の専攻等において、学長を中心とした強力なマネジメント体制の下で、国際的に卓越した教育研究拠点を形成し、世界をリードする創造的な人材養成の場(拠点)を形成する事業を支援。

対象: 大学院研究科専攻等(博士課程レベル) 支援期間: 5年間 (3年目に中間評価、終了後に事後評価を実施)
支援金額等: 補助金額: 年間上限5億円(但し H21年は3億円)まで (間接経費30%)

⇒ 平成22年度概算要求では、平成19年度採択拠点について、中間評価を踏まえたメリハリある予算配分を実施するとともに、特に、複数の機関が共同して行う優れた取組を実施する拠点については、支援を重点的に強化

複数の機関が共同で学生を教育する体制の構築 (拠点の共同利用化、ネットワーク化など)

- ・ 大学院の組織改革 (新しい専攻の設置 など)
- ・ 経済的支援の充実 (TA・RA等での雇用を通じた学生への経済的支援の充実 など)
- ・ 教育研究基盤の充実 (国内外の優秀な教員の結集、教育研究設備の充実 など)

○ 連携や共同利用による拠点の教育機能の充実 ○ 優秀な教員・学生の結集 ○ 組織性・継続性の確保